

概要版



甲府まちなか
エリアプラットフォーム

甲府まちなか 未来ビジョン 2025

「大好きな甲府の日常」を、
“まちなか”につくろう！



「ビジョン」とは

ビジョン (Vision) とは、理想の未来像を描き、みんなの道しるべとして共有するものです。

これを共有することで、

個々の目標や取り組み方は人それぞれでも、お互いに協力しながら

共通の未来に近づけていくことができます。

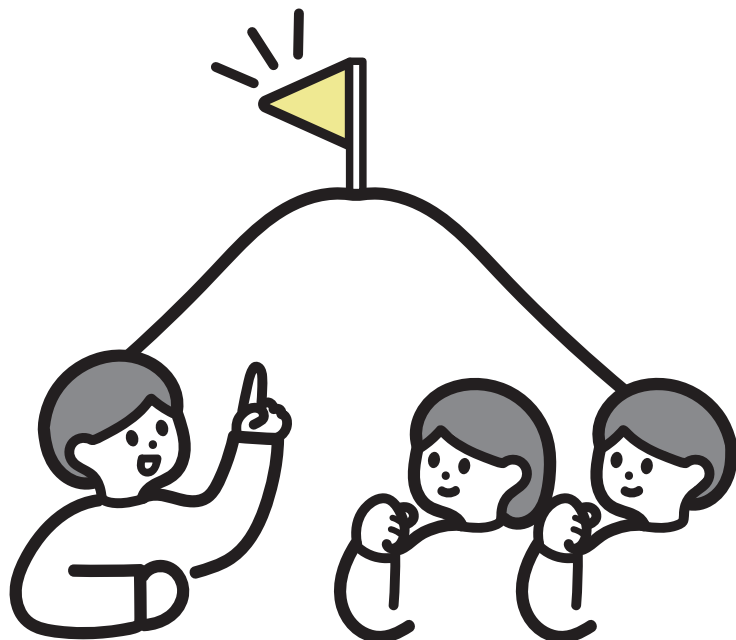
この取り組みでは、

日々の暮らしを豊かにする

甲府のまちなかの未来像を、

民間と行政が力を合わせて描き、

ともに実現を目指していきます。



公民連携の ビジョンづくり

実際の活動を担う民間プレイヤーの視点を早い段階から取り入れ、社会実験で検証・改善を行い、それらの結果も踏まえながらビジョンをまとめることで、「行政任せ」「民間任せ」では実現できないまちなかの変化につなげていきます。

「公」とは？



行政のこと。甲府市、山梨県、国機関などを主とした公的機関のこと。

「民」とは？



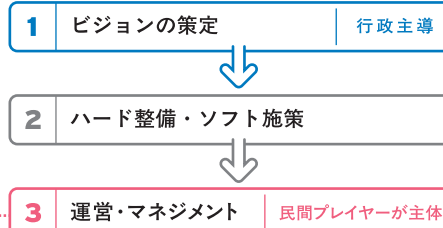
パブリックマインド※1を持つ民間事業者、団体、個人のこと※2。

「得意」を持ち寄り・組み合わせ、互いの強みを活かし合う！

※1 まちや社会を良くしたいという気持ち
※2 本ビジョンでは「プレイヤー」とも呼ぶ

✕ 担い手の視点を**入れない**ビジョン

運営してから問題点に気づいても既に決まっているので反映不可

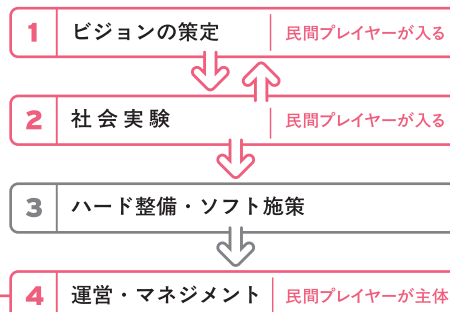


陥りがちなパターン

後から事業運営上の課題に直面し、思うような成果が出ない。さらに後戻りできない。せっかくの投資が無駄になったり、行政として追加の対応に追われるケースもある。

○ 担い手の視点を**入れる**ビジョン

運営の視点がしっかりと入れられる！

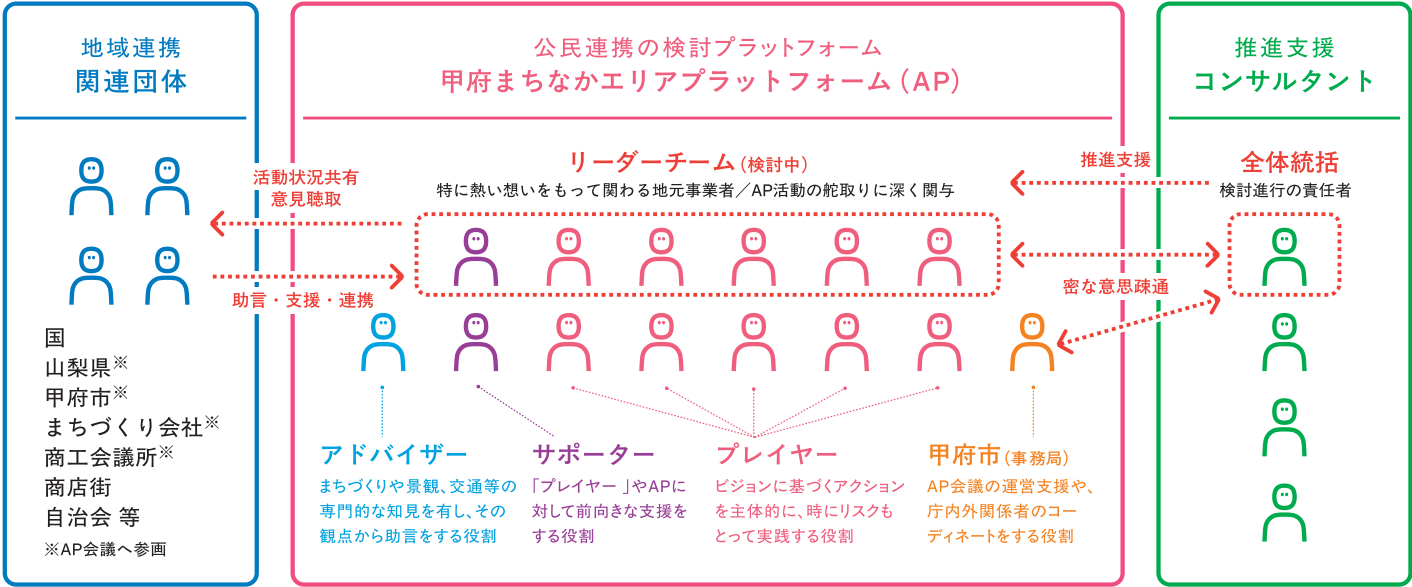


本ビジョンの方法

実効性・持続可能性が高く、民間プレイヤー自身のモチベーションも高い状態。まちなかの日常的な価値を高める活動を後押しする。ハード整備を含め、行政としての投資対効果も高まる。

甲府まちなかエリアプラットフォームとは

このビジョンは、甲府まちなかエリアプラットフォーム（以降、略称「AP」）が様々な方のご意見を聞きながらとりまとめたものです。APは、甲府のこれからを考え、パブリックマインドを持ち、主体的に動く公民にわたる有志たちで構成される組織です。甲府の将来像を議論し、描き、その実現に向けた取り組みについて協議・調整を行います。2023年に発足し、徐々に仲間を増やしながら運営をしていきます。



APの活動スケジュール

中間ゴールとして2027年度にリーディングプロジェクトが自走化・定常化することを目指し、社会実験による様々な検証を継続します。同時に、これまで以上にまちなかに関わる方々との接点や関わりしるを増やし、活動の幅や範囲を少しずつ拡大していくことを目指します。

	助走段階			本格推進	中間ゴール
	APを立ち上げ、ビジョンをつくる			事業づくりへの活動を推進	自走化・定常化へ
	2022年度	2023年度	2024年度	2025~2026年度	2027年度
AP体制構築	関係者へのヒアリング・声掛け	立ち上げ	体制拡大・PJ※チーム発足	連携・協力の拡大、運営体制を検討	持続可能な運営体制に移行
ビジョン策定		ビジョンβ版作成	甲府まちなか未来ビジョン完成	共通指針、コミュニケーションツールとして活用	
公民連携での事業づくり・波及促進		社会実験による課題抽出	社会実験による仮説検証①	社会実験による仮説検証②	新たな取り組みへの波及
		連携	連携	連携	学び・ノウハウ共有
公による支援・連携		ハード整備との連携、空間活用促進に向けた仕組みづくり、関係者コーディネートなど		収益構造・運営方法を作りあげ、公民連携事業として推進	
	AP立ち上げ・リーディングPJ事業化に向けた初期投資				

コンセプト

360°やまなし

愛があふれる、
人が自然とまざりあう
そんな甲府のまちなかを
未来に

甲府のまちなかの課題と可能性

課題

- 生産年齢人口の減少
- 地価が下落
- 店舗数の減少
- 甲府駅から人が流れない
- 目的地や居場所が少ない
- 若い人が魅力を感じていない

可能性

- 全方位、美しい名山に囲まれている
- 生産地と消費地が近い
- 全市町村からアクセスしやすい
- 甲府城など歴史文化財がある
- 盆地で四季を感じやすい



POINT 1

甲府のまちなかにいる人にとって「日常的な魅力」にあふれる「目的地、居場所」を増やしていくことが大事

POINT 2

大人の視点だけでなく、次世代の子ども・若者の地域への愛着につながるような魅力づくりを大切に

POINT 3

単につくるだけでなく、気づききっかけやアクセスのしやすさも同時に担保する必要もある

実現したい状態

GOAL

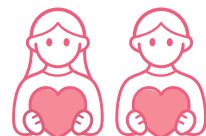
実現したい状態

甲府の
まちなかにいる人が
「幸せで豊かな暮らし」
を実感できること

甲府のまちなかで
魅力的なライフスタイルが
実現すること



地元の人々が
まちなかでの暮らしを
大好きになること



訪れた人の
まちなかで過ごす時間が
増えていること



全方位が、
「山」な市
だからこそできる、
幸せの醸成

まずは自分たちから
あふれる愛を生みだし伝える
一人ひとりの個性が輝きまざりあう
まちの空間へ

「360°やまなし」は、甲府市が360°全方位を山に囲まれた市であることを表現しています。その恵みに感謝しながら活かすことで、甲府のまちなかに幸せな暮らしや人々の交流が生まれ、甲府や山梨全体にも広がるような未来を目指していきます。

姿勢と戦略

STANCE

取り組みの姿勢

公民が連携して、幸せな暮らしにつながる
「大好きな甲府の日常」を、“まちなか”につくろう！



まずは自分たちで好きな暮らしを形に。



「日常」＝地域に定常化させる。

STRATEGY

戦略の柱

「ぐるりと回遊して楽しめるまちなかをつくっていく」

1 居心地のいい
場所をつくる！

公園や道、空き店舗など、まちなかの「余白」を磨き、使いこなすためのデザインや仕組みをつくります。

2 甲府らしい
活動をつくる！

日常を魅力的にする企画や、様々な人やコミュニティなどが連携できるような活動などをつくります。

3 つながりやすい
導線をつくる！

アクセスや回遊を促す方法を検討したり、まちなかの魅力情報を発信して訪れるきっかけをつくります。

ビジョン実現に向けたプロジェクト

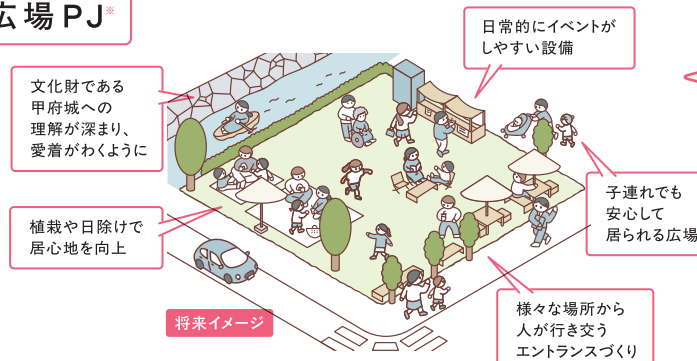
ビジョンを実現していくために、
下記7つのリーディングプロ
ジェクトを立ち上げました。社

1 居心地のいい場所をつくる！

舞鶴城公園南広場PJ*

目指す姿

だれでも思い思い
に過ごせる居場
所、歴史と人とま
ちをつなげる「スク
ランブル」な広場



今後の方針

- 公園の管理者である山梨県と連携し、甲府城をはじめとした文化財の価値を享受しながら、思い思いに過ごせるこの広場にふさわしい品格あるハード整備の実現を目指します。
- ピクニックシートの貸し出しサービスなど、民間プレイヤー側のサービス自走化に取り組みます。

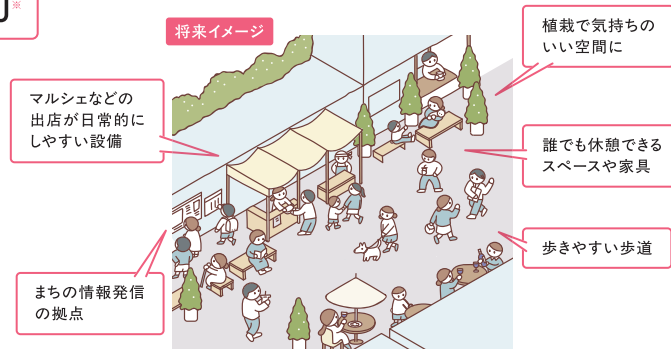
連携すべき主体

- 公園の整備・利活用促進：山梨県（景観まちづくり室、中北建設事務所）
- 公園の整備・文化財保存活用：山梨県（文化振興・文化財課、埋蔵文化財センター）
- 滞留促進等のサービス：民間プレイヤー、周辺店舗

オリオン通りPJ*

目指す姿

わざわざこの道を
歩きたくなる、個性
が集まり輝く「ウォ
ーカブル」な通り
道をつくる



今後の方針

- 道路の管理者である甲府市、沿道商業施設、また山梨中央銀行らと連携し、滞留空間に富み、イベント出店もしやすく、わざわざ歩きたくなる道路空間の実現を目指します。
- マルシェやポップアップストアの恒例化や、掲示板の自走化に向けた仕組みづくりに取り組みます。

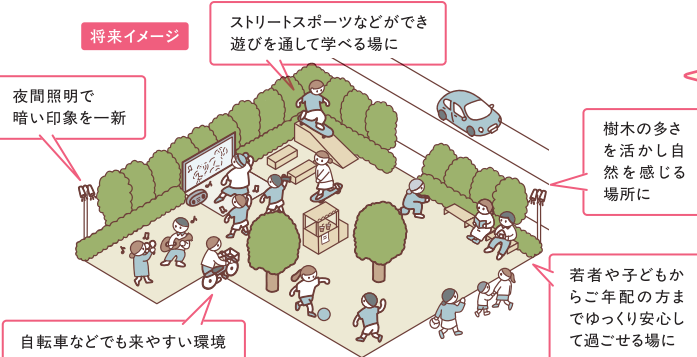
連携すべき主体

- 道路の整備・利活用促進：甲府市（まちづくり部等）
- 民有地の整備・利活用：沿道商業施設、山梨中央銀行等
- 滞留促進などのサービス（椅子テーブル、掲示板等）：民間プレイヤー（APメンバー他）

中央公園PJ*

目指す姿

人生を豊かにする
遊びと学びの場、
「プレイヤブル」な
森林公園



今後の方針

- 公園の管理者である山梨県と連携し、一般的な公園利用とストリートスポーツ利用とが両立する環境の実現を目指します。
- 山梨県と連携し、多様な利用者が幸せに共存できるような運営を持続可能なかたちで実現するための仕組みづくりに取り組みます。

連携すべき主体

- 公園の整備・利活用促進：山梨県（景観まちづくり室、中北建設事務所）
- ストリートスポーツなどの管理（ルール遵守等）：民間プレイヤー（APメンバー他）
- 商業施設運営（要検討/未定）：民間プレイヤー

エリアリノベーションPJ*

目指す姿

まちなかの魅力を高めるような「空き店舗の
リノベーションと運営」が広がっていくこと

今後の方針

リーディングエリアにおいて、APだからこそやるべき空き店舗のリノベーションおよび運営の先進的な事例をつくりまします。また、公有地、民有地を問わず、パブリックな場所のリノベ実践を積み重ねるなどして、共感者（特に大家さん）を増やします。

2 甲府らしい活動をつくる！

サーキュラーPJ*

目指す姿

甲府のまちなかの
特性を活かした、循
環システムをつくる



今後の方針

- まちなかエリアの飲食店と連携し、コンポストによる肥料づくりと菜園化・緑化、リユース食器を活用したテイクアウトシステムづくりに取り組みます。
- また、そのプロセスを通じて飲食店や消費者の新たなコミュニティづくりを目指します。

会実験による検証活動を通じて、将来的な自走化・定常化を目指します。

※イラストや写真は、あくまでもイメージであり、実際の計画を示すものではありません。

※PJ=プロジェクト

社会実験で 行ったこと



日除けテント、パラソル、ベンチ、チェア、植栽などを設置し、ピクニックシートを貸出

ヴァンフォーレとおしろらんどが連携し、親子向けの教室を開催

社会実験で 行ったこと



ストリートファニチャーを設置し、様々な人が行き交い、交流する場となった

情報を発信する掲示板

社会実験で 行ったこと



ダンスイベントでは設置したDJブース、ダンスマット、鏡などを利用

スケボーセクションを設置、子どもも大人も体験しながら楽しむ空間に



3 つながりやすい導線をつくる！

街コンテンツPJ*

目指す姿

多様な人の「甲府まちなか愛」を継続的に発信し、まちなかへの導線をつくる

社会実験で
行ったこと



Instagramのトークライブ「やっほー!こうふ」の配信

今後の方針

安定した収入を得る仕組みをつくり、持続可能な発信体制の確立に取り組みます。

連携すべき主体

- 発信の企画・運営：民間プレイヤー（APメンバー等）
- 発信の協賛・後援：民間サポーター

回遊モビリティPJ*

目指す姿

まちなかの目的地に気軽に足を運んだり、他の場所とも行き来しやすくなるよう、より便利な移動の仕組みづくりを考える

今後の方針

まずは甲府市が中心となって山梨県や民間事業者の関連施策、取り組みを整理し、目指す仕組みをAPで議論します。特定の仕組みの導入ありきではなく、既存の取り組みとの連携も含めて最適な形を模索していきます。



甲府まちなか
エリアプラットフォーム

詳しい活動の内容は
こちらで発信しています

WEB



Instagram



甲 府 A P



<https://kofu-machinaka-ap.com>

この活動は、官民連携まちなか再生推進事業
として国土交通省の支援により実施しています。

事務局：  甲府市企画部企画総室地域デザイン課